

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 30 人

② 算数 30 人

5 留意事項

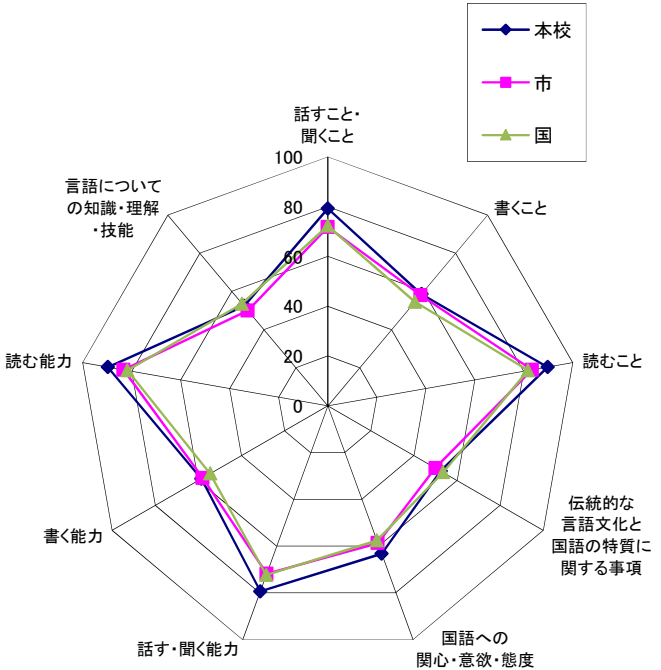
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	79.3	71.8	72.3
	書くこと	58.6	58.0	54.5
	読むこと	89.7	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	52.4	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	63.2	58.7	57.6
	話す・聞く能力	79.3	71.8	72.3
	書く能力	58.6	58.0	54.5
	読む能力	89.7	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	52.4	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

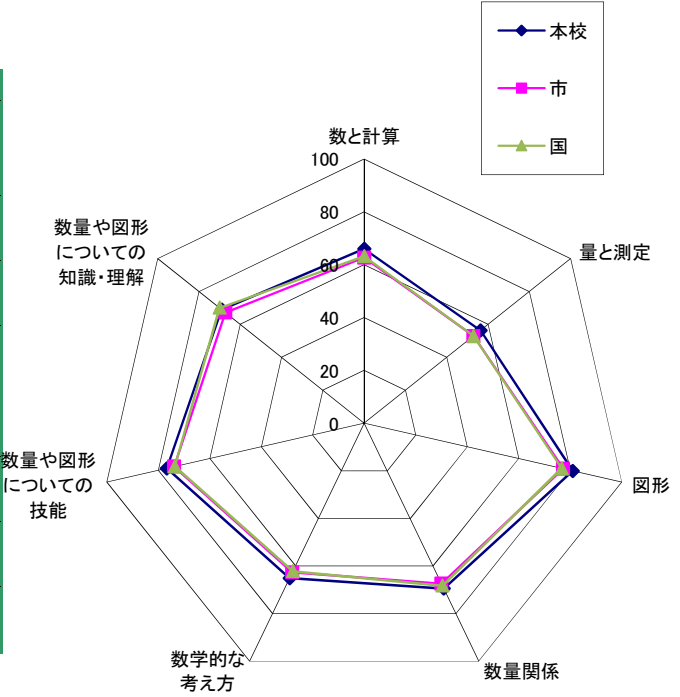
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正答率の平均が国や市を7ポイント上回った。特に、インタビューの様子を読み、質問者が相手から答えを引き出すために工夫していることを選択する問題では、国や県の正答率を15.4ポイント上回るなど、目的に応じた質問の工夫についてよく身に付いている。 ○聞き取った内容から、自分の考えをまとめ伝える問題においても、平均正答率は、国を4.2ポイント県を3.3ポイント上回り、良好な結果となった。	・相手の話を聞く際に、必要に応じてメモを取ったり、質問の仕方を考えたりして、目的に応じた質問の工夫ができるよう、さらに指導内容を深めていく。 ・授業の中で話し合い活動を積極的に取り入れるようにするとともに、話し合いの際には自分の意見を持ち、相手の意見と比較することができるように指導していく。
書くこと	○平均正答率は、市を0.6ポイント、国を4.1ポイント上回っている。報告する文書を読み、その中で使われている資料がどのような目的で使われているかを選択する問題では、国や県の正答率を約15ポイント上回るなど、相手に伝える際に資料を文章中でどのように使ったらよいかについてよく理解できている。 ●文章から必要な情報を集め40字以上70字以内で書いて説明する問題では正答率は27.6%と低く、県を2.9ポイント、国を1.2ポイント下回った。無答率も高かったことから、自分の考えをまとめて書く力の育成や、書くことへの苦手意識の払拭が課題である。	・考えをまとめて文章にすることに対する苦手意識を解消するため、国語の授業だけでなく、他教科の授業の際にも自分の考えを書く活動を多く取り入れていく。 ・相手に伝えることを意識して、文字数や構成の仕方など、様々な制約の中で文章を書く経験を積ませていく。
読むこと	○平均正答率は、市を6.4ポイント、国を8.0ポイント上回っている。説明文の内容を理解し記述して答える問題では国や市の正答率を12ポイント以上上回るなど、目的に応じて文章の内容を押さえ自分の考えを明確にしなが読む習慣が身に付いている。 ○目次を利用して自分の調べたい事を効果的に調べる方法を問う問題では、正答率は、県を2.6ポイント、国を4.6ポイント上回っている。本や文章全体を概観して効果的に読む力が定着している。	・説明文を読む際には文書の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読むことを意識させていく。 ・物語文や説明文など多様な文章に触れるようにし、適切にまとめる力や登場人物の心情の変化などを考える指導を継続して行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、市を2.4ポイント上回っているが、国より1.1ポイント低かった。基礎的な漢字や同音異義語についての問題では、県の平均を上回っているものが多いが、国の平均には届かないものもあった。漢字の力が定着しつつあるが、個人差が見られた。 ●慣用句やことわざの使い方に関する問題では、国や県の正答率を4ポイント以上下回っている。また、接続語を使って1つの文を2つの文に書き直す問題では、無答率も高いため、今後の課題と考える。	・既習の漢字についても、くり返し学習することで定着を図るとともに、慣用句やことわざについては、国語だけでなく学校生活における様々な場面で触れられるよう指導をしていく。

宇都宮市立中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	66.0	62.7	63.2
	量と測定	56.3	52.9	52.9
	図形	81.0	77.3	76.7
	数量関係	69.5	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	65.1	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	76.7	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	69.0	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○四則計算の決まりをよく理解しており、平均正答率は、市を3.3ポイント、国を2.8ポイント上回っている。特に加法と乗法の混合した整数と小数の計算の問題の正答率が高く、県より11.2ポイント、国より8.9ポイント上回っている。また、計算の式から解釈して別の式に表すことができる。 ●除法について示された式を解釈し、「除数・被除数・商」の3つの言葉を使って計算の仕方をまとめる記述式の問題では、正答率が県や国を上回っているが、34.5%と低く、無回答も10%台と高かった。式は理解していても、考え方を言葉で表現する力に課題が見られた。	・立式するだけでなく、それを言葉などで表現する課題に多く取り組みませ、他者の意見を理解したり、自分の考え方を表現したりする力を育てていく。 ・引き続き、ステップアップテストや朝の学習タイム、家庭学習など利用して、繰り返し練習問題に取り組む機会を確保し、小数・分数の四則計算力の定着を図っていく。
量と測定	○平均正答率は、市や国を3.4ポイント上回っている。場面の状況から単位量当たりの大きさを基に求め方と答えを記述しその結果から判断する問題では、県や国の平均を7ポイント程度上回った。示された情報を解釈し、条件に合う答えを導き出して最終問題に解答するなど段階を踏まえた思考力が伸びてきている。 ●示された図形の面積を求める式を解釈し、言葉や数を使って説明する問題で、県や国の平均を上回っているが、全体的に正答率が低く、無答率も高かった。自分の考えを根拠を示して分かりやすく説明することに課題が見られる。	・基礎的な力の定着のため、これまでと同様に復習問題に取り組ませる。授業においては理由を記述したり、互いに説明し合ったりする活動を取り入れ、考え、伝える力を育てていく。
図形	○平均正答率は、市を3.7ポイント、国を4.3ポイント上回っている。特に台形の定義についてよく理解している。また、図形の性質や構成要素に着目し他の図形を構成することができている。	・具体物による操作活動を通して、それぞれの図形の性質を理解し、図形に対する興味・関心を高めることができるようにする。 ・発展的な学習活動を多く取り入れ、学習したことを生かして課題を解決する楽しさを味わわせ、意欲の向上を図る。
数量関係	○平均正答率は、市を2.1ポイント、国を1.2ポイント上回っている。2つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、その理由を記述する問題では、正答率が県より6.4ポイント、国より3.1ポイント高かった。また、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述しその結果から判断する問題は市や国の正答率を7ポイント程度上回っている。資料の特徴を捉え、それらを関連付けて考えを書いたり、的確な言葉や式を使って解答したりする力が伸びてきている。 ●目的に適した伴って変わる2つの数量を見いだす問題では、県や国の平均をやや下回っている。目的のために必要な条件を理解する力が不十分である。	・問題文をよく理解し、分かっていることや求めるために必要な条件を理解させる問題に多く取り組ませるようにする。 ・算数で学んだ、データを読み取ったり活用したりする力を、「総合的な学習」や児童会活動など、様々な領域や活動に生かし、思考力、判断力や表現力の向上を図っていく。

宇都宮市立中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童がいずれも96～100%と県と全国の平均を上回った。このことから、将来に希望をもち、友達や下級生に思いやりをもって関わるができる児童が多いことが分かる。今後も縦割り班やキャリア教育、総合的な学習の時間等を活用し、児童の意識を高めていきたい。

○「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う」の全てにおいて児童の肯定的回答が、県・全国の平均を大きく上回った。特別活動や各教科の学習において児童間で考えを伝える場を積極的に設定してきた成果であるといえる。今後は、考えを伝え合うだけでなく、友達との関わりの中で、自分の考えを「広げる・深める」という点を重視して学習や活動等を進めていきたい。

○「朝食を毎日食べている」と答えた児童は96.6%、「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた児童は86.7%といずれも県・全国の平均を上回ったことから、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いと考えられる。体育における保健領域の学習で生活習慣について学ぶ機会があるので、よりよい生活習慣についての理解をさらに深めていきたい。

○「学校に行くのは楽しい」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた児童が100%で県・全国の平均を上回った。学級内での良好な関係を築くことができている児童が多い結果なので、今後も継続して指導にあたりたい。

○「1日あたりどれくらいの時間勉強しているか」という問いに対して、1時間以上と回答した児童が70%で国の平均を、「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童は76.6%で県・全国の平均をそれぞれ上回った。本校が定めている「6年生の学習時間は1日70分以上」という目標と本校独自に行っている「家庭学習マイプラン」を意識して学習に取り組むことができている児童が昨年度よりも増えてきている。今後も児童を励ましながら更なる家庭学習の充実にも努めたい。

●「読書が好き」と答えた児童は県・全国を上回ったものの、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」という質問では、「月に1～3回程度行く」「年に数回程度行く」と答えた児童が計73.3%で、県・全国を約20ポイント上回り、週に1～4回行く児童は県・全国を7ポイント以上下回った。読み聞かせやおすすめの本の紹介、学校での読書時間の確保等を通して、本に親しむ機会を多く設定し、本が好きな児童を育てていきたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加してる」と答えた児童は86.6%で県・全国を10ポイント以上上回ったものの、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と答えた児童は53.3%と県・全国を下回った。地域の方々に関わる機会や行事が多いという本校の特徴を生かし、生活科や社会科、総合的な学習の時間等の授業で自分たちの住む地域のよさに改めて気付かせるとともに、よりよい中央地区にするために自分たちができることについても考えさせていきたい。

宇都宮市立中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	児童が「解決したい」「解決しなければならぬ」という思いをもつことができるような「課題」の設定と提示の仕方を工夫している。	・「国語が好き」と回答した児童が80%で、県や国の平均を10ポイント以上上回っている。 ・「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う」と答えた児童の割合は、87.3%で、県や国の平均を上回っている。
考えを広げ深めるための学び合い活動の充実	授業の中で、対話的な学び合いの場の設定や活動を工夫し、友達との考えの交流から、自分の考えを広げたり深めたりできるような指導を目指している。	・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができている」と答えた児童の割合は86.6%で、県や国の平均正答率を上回っている。 ・道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と答えた児童の割合は、92.9%で、県や国の平均を上回っている。
基礎的な学習内容の定着のための取組	定期的な漢字の小テストやステップアップテスト（漢字・計算）を実施したり、朝の学習で、担任以外の教員も含めた複数の指導者による学習支援を行ったりして、基礎的な学習内容の定着を図っている。	・算数の四則計算の問題についての平均正答率は、多くの問題で県や国の平均を上回っている。 ・国語の「言語についての知識・理解・技能」についての平均正答率は、52.4%で県や国の平均を下回った。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	全学年で「家庭学習マイプラン」を実施し、毎日の家庭学習の内容や時間を記録させ、家庭での学習意欲を高めたり自主的に学習に取り組む習慣をつけられるように指導している。	・「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童は76.6%と県・全国の平均を上回った。 ・「1日あたりどれくらいの時間勉強しているか」という問いに対して、1時間以上と回答した児童が70%で国の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科についての調査結果から、記述の問題や、活用に関する問題についての平均正答率が低く、50%に到達していないものもあった。	「自ら考え、表現する」活動の充実	・各教科の授業の中で、目的を明確にもたせ解決過程を丁寧に扱い思考を伴う活動や問題に意図的に取り組ませる。 ・自分の考えを分かりやすく正確に伝えられるようにするために、文章や図等で表現したり、自分なりの言葉で話したりする活動の機会を多く設定する。